

## 本を読もう！ - 3つの文学賞 -

「最近、本読んでないな。」「何か新しい本を読みたいな〜」「今、どんな本が人気あるのかな？」

本を読もう！と思っても、読みたい本が見つからないとき、私は賞を取った本を読むことにしています。賞を取った本なので、きっと面白いだろう、絶対いい本なんだろう、と思っています。そして、人気のある、有名な本を読めば、誰かと会話をするとき、会話の話題にすることもできます。



日本には色々な文学賞、つまり、本の賞があります。今から有名な3つの賞を紹介します。

まず、1つ目は芥川賞です。これは、日本の小説家である芥川龍之介(1892~1927年)の名前から取った賞です。芥川龍之介の有名な作品は、『鼻』

『羅生門』『蜘蛛の糸』などです。私も大好きな小説家です。芥川の作品は、日本語の多読の本にたくさんあります。日本語多読の本は、日本語を勉強する人のために書かれました\*。とても読みやすいです。



芥川賞は、1944年にできました。新しい小説家に与えられる賞です。そして、芸術

性を大切にされた本が選ばれます。最新(2022年5月現在)の受賞作品は、砂川文次の『ブラックボックス』です。コロナになってから、自転車で郵便を届けるメッセンジャーの仕事をする若い人の話です。その人は、仕事が不安定で、いつも不安を感じています。自分も同じだと感じる人もいるかもしれません。



2つ目は直木賞です。これは、日本の小説家である直木三十五(1891~1934年)の名前から取った賞です。

芥川賞と同じ1944年にできました。新しい小説家からある程度小説を書いてきた小説家に与えられる賞です。そして、楽しくて簡単に読める本が選ばれます。最新の受賞作品は、今村翔吾の『塞王の楯』と米澤穂信の『黒牢城』です。両方ともお城を舞台にした歴史小説です。『塞王の楯』は、どうしたら戦争がない世界になるのか考えさせられる本です。『黒牢城』は、ミステリー小説なので、ドキドキして時間を忘れてしまいます。

3つ目は本屋大賞です。芥川賞、直木賞は作家や文学評論家が選ぶのですが、本屋大賞は本屋の店員が選びます。私は本屋大賞の本をほとんど読みました。

本屋大賞は、2004年にできました。店員が面白くてみんなに薦めたいと思っただ本が選ばれます。最新の受賞作品は、町田そのこの『52ヘルツのクジラたち』です。子どもへの虐待、DV(家庭内暴力)、トランスジェンダーなど様々な社会問題が含まれています。最初、読むときに勇気が必要ですが、愛を感じることができる内容です。



私は、直木賞の名前である直木三十五の作品を読んだことはありません。この多読の読み物を作ったので、次は、直木三十五の本を読もうと思います。賞を取った本はよく翻訳されます。日本語で読むことが難しいとき、母語に翻訳されていたら、その翻訳で読んでみてください。母語で読んでも、日本の社会、文化、歴史、文学を知ることができると思います。

\* 下に紹介する本は、日本語を勉強する人のために書かれた日本語多読の本です。この本の中に芥川龍之介の作品があります。ぜひ読んでみてください。

- NPO多言語多読監修『レベル別日本語多読ライブラリー』シリーズ、アスク出版
- NPO多言語多読監修『にほんご多読ブックス』シリーズ、大修館書店

(1175字)

(2022.6 Written by Wakiko FUTAKUCHI)

#### <参考資料>

- 公益財団法人日本文学振興会ウェブサイト

<https://www.bunshun.co.jp/shinkoukai/>

- 本屋大賞ウェブサイト

<https://www.hontai.or.jp/>

(2022.6.20 ウェブサイト確認)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.